

定義如来のご利益

私たちが生まれていない明治、大正の時代、信仰の深い田舎の人々は、毎年のように定義さんにお参りしていた。

定義さんとは、大倉ダムの奥にあるお寺で、定義如来と云い立派な五重塔などがある。生家がある平沢の信者は、歩いてお参りしたそうだ。

歩けば十里（四十キロ）以上はある、交通の不便な時代であった。自転車もない時代で、乗り物といえば馬ぐらい。荷物の運搬には馬車、牛車はよいほうで、馬や牛に背負わせ、又は自身で背負うのだった。私の小さい時代にも、自転車は無かった。

私達も仙台に引越し、営業を始め自動車を買った後、毎年のように定義さん参りに行った。其の時のエピソードがある。

店を休み妻と二人車で、定義さん参りに行った時のご利益の事である。

家を出発して八幡町を通る国道四十八号線を西進、愛子を通過、白沢を通る。上りの直線道路でねずみ取りをやっている。帰りはスピードに気を付けなければと思いつながら、橋を渡り右折し、田舎道に入る。大倉ダム脇を通り定義さんに着く。

時間があれば拜殿に上がり、祈祷料を収め、大勢の人々と家内安全、交通安全の祈祷を受け、お札を戴いてくる。その日はお賽銭を上げ参拝。店屋に寄り何かしの土産物を買ひ、大倉ダムの北側を通り帰途に着いた。

すっかり忘れていた。帰りはスピードに気をつけなければならぬのに、白沢のネズミ捕りに引っかかってしまった。道より少し入った場所に誘導され、警察官と対峙した。

十七キロオーバーであった。キップを書いて居る間、自分の事を棚に上げ、「測定やって居るのが判っていないながら、定義さん参りして来たが、サツパリご利益ないなや」仏様が聞いたら驚くような悪態ついて、お巡りさんを笑わせた。

免許証だけいいのに、車検証まで見せ、その車検証を忘れ

「反則金を愛子の郵便局で納めて帰るか」と五千円の納付書を貰い、あきらめて帰途についた。

かあちゃんも亭主の無様な姿を目の当りににして、どんな思いだっただろう。定義さん参りの帰りにだ。

一キロか、二キロ走った時、白バイがサイレン鳴らし、私の車を止めた。二度ビツクリ「スピードは違反してないのに」窓を開けたら、「車検証を忘れましたよ」それから「違反キップを返して下さい、当方のミスで書き方間違いました、没にします」と言われ、貰ったばかりの書類を返した。

おまわりさんは「私は・・・です村上さんを知っています」傍に居て気がつきませんでした」と言いウタウンして帰って行った。その白バイのおまわりさんは、二郎が生まれるときの取り上げ産婆さんの孫に当たる人で、矢附父方の親戚である。

とたんに定義さんのご利益が尽いたと、悪態ついていたのを引っ込め、仏様の悪口を言うものではないと、心を入れ替えた。

あの当時のお産は、自宅で産婆さんと呼んできて取り上げて貰った。この付近は殆んどその産婆さんであった。

二郎の時も夜中に起され「産まれそうだから産婆さん呼んできて」と言われ、急いで迎いに行った。

定義さん参りのあの事があつた後、かあちゃんは、産婆さんの家にお茶のみに行き、定義さんのご利益の話しに、改めて信心を深くしたと今日聞かされた。三十五年以上前の忘れられない思い出だ。